

●プロフィール

■制作（マネージメント・構成・編曲・司会）／松本憲治



東京藝術大学卒業。声楽を専攻しつつ在学中より作曲を高田三郎、島岡譲、また早川正昭の各氏に師事。現在オーケストラ、オペラ、合唱の指揮、多様なジャンルの作・編曲などで活動、様々な地域での市民のための文化芸術制作を幅広く実施している。中国新聞文化センター講師、廿日市市芸術文化振興事業団特別顧問など。平成17年広島市より広島文化賞、平成27年廿日市よりさくら賞、同年広島県より広島県地域文化功労賞。

■演奏者

○枝松 瞳／ソプラノ



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学別科修了。日本歌曲振興会第18回日本歌曲コンクール声楽部門第1位及び四家文子賞受賞。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部29期修了。オペラでは文化庁新人育成オペラアンサンブル公演「イル・カンビエッロ」（ガスパリーナ）で本格デビュー後多数オペラに出演。また宗教曲のソリストとしても活躍。2012年より広島に拠点を移し、県内外において幅広く活動。広島市在住。

○今井千晶／ヴァイオリン



愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学）卒業。日本音楽学会中部支部例会にて卒業論文を発表。エリザベト音楽大学大学院器楽科（ヴァイオリン）修了。現在、エリザベト音楽大学非常勤演奏助手、助手、瀬戸フィルハーモニー交響楽団団員、あきクラシックコンサート実行委員会会長、はつかいちジュニア弦楽合奏団“NOZOMI”インストラクター、はつかいち室内合奏団“SAKURA”団員。

○宮本隆一／チェロ



東京音楽大学付属高等学校を経て東京音楽大学卒業。東京音楽大学大学院修了。第8回日本アンサンブルコンクール室内楽部門優秀演奏者賞、全音楽譜出版社賞受賞。アメリカでCreative Strings キャンプに参加。在京中、東京フィルハーモニー・オーケストラをはじめ様々なプロ・オーケストラに参加。現在、広島を中心にソロ、アンサンブル、オーケストラで活動中。ノートルダム清心中・高等学校弦楽部コーチ等。

○小林知世／ピアノ



広島市出身。博士（音楽）。エリザベト音楽大学大学院博士後期課程を修了。これまでピアノを谷口博子、松村英臣、前田麻紀、岡本えり、高良芳枝、柴田美穂、J.ルヴィエの各氏に、作曲・対位法を平井正志氏に師事。第77回読売新人演奏会をはじめ、ドイツ、オーストリア、東南アジアなどの音楽祭に招待演奏者として参加。現在、エリザベト音楽大学非常勤助手、付属音楽園講師。TA-YACピアノスタジオ講師。

■ステージスタッフ／檜垣伸朗

長く、主に照明スタッフとして篠本照明株式会社に所属し、照明プランの他、舞台全般の舞台監督業務に携わる。現在フリーの舞台監督として様々なコンサート、イベントの制作進行業務に関わっている。

ボランティアスタッフ募集中

各種イベントにスタッフとして参加したい人や、誰かの応援をしたい人を募集しています。

一般社団法人海田町文化スポーツ協会

世界の名曲コンサート

～美しいメロディー～

夢の跡に…

広い年齢層の地域住民を対象に、人類共通の財産である「クラシック」と言われる芸術音楽を親しめる内容で、人の心の豊さ、深さ、素晴らしさ、そして地域の人々の共生を音楽を通して感じるコンサート

日時 令和5年6月25日（日）
13:30開演（13:00開場）

会場 織田幹雄スクエア ホール

主催 一般社団法人海田町文化スポーツ協会

後援 海田町教育委員会



世界の名曲コンサート

～美しいメロディー～

夢の跡に…



●プログラム

解説：松本憲治

1) アラベスク 1番 / C. ドビュッシー (1862~1918) ・ピアノ独奏

クロード・ドビュッシーはフランスの作曲家。活躍したのは20世紀はじめ。日本も含めた東洋の絵画に影響を受けたと言われています。「アラベスク」とは「アラビア風の唐草模様」のような装飾的なメロディーが輝かしく交錯します。彼が26~29歳の時、作曲されました。

2) 愛の喜び / F. クライスラー (1875~1962) ・ヴァイオリン独奏

フリッツ・クライスラーはオーストリア・ウィーンの作曲家。ヴァイオリンの名手でもあります。生き生きとしたワルツ(=3拍子)はウィーン貴族社会の晴れやかで喜びに満ちた、豪華な気品を感じさせるヴァイオリンの名曲です。

3) 夢の跡に / G. フォーレ (1845~1924) ・チェロ独奏

ガブリエル・フォーレはフランスの作曲家。「夢の跡に」はもともとは歌曲ですが、ゆったりとしたメロディーがとても美しく、さまざまな独奏楽器で演奏されます。別れてしまった恋人と、まだ一緒に幸せな時を過ごしていた時の美しく甘い夢…。その夢から目覚めた後の寂しさ。

4) ガボット / F. J. ゴセック (1734~1829) ・二重奏 (Vn. Vc.)

フランソワ=ジョセフ・ゴセックはベルギーの作曲家。「ガボット」というのはフランスの市民の踊り(フォーク・ダンス)ですが、この曲はもともとは彼が作曲したオペラの中の舞曲。古典的な香りの中で明快に弾む楽しいメロディーは、瞬く間にヨーロッパ中に流行りました。

5) シシリエンヌ / G. フォーレ (1845~1924) ・三重奏 (Vn. Vc. Pf.)

仏語で「シシリエンヌ」(イタリア語では「シシリアーナ」)は、イタリア、シシリー島に伝わる6/8拍子で抒情的で物悲しいメロディーを持つ舞曲ですが、さまざまな作曲家が作曲しています。フォーレのシシリエンヌも名作の一つ。もともとはオーケストラ曲でした。

6) 野ばら / F. シューベルト (1797~1828) ・ソプラノ独唱 (Pf 伴奏)

フランツ・シューベルトはオーストリアの作曲家。ご存じ「歌曲王」として有名。ゲーテの詩に作曲されたもので、ウェルナーなど、たくさんの作曲家が作曲しています。「男の子が野原のバラを摘み、バラは男の子を小さなトゲで刺す」お話は「男の子と女の子」の暗喩、とされています。



7) からたちの花 / 作曲：山田耕筰 (1886~1965) ・ソプラノ独唱 (Pf 伴奏) 作詞：北原白秋 (1885~1942)

山田耕筰は、福島で生まれ東京で音楽の勉強、交響曲やオペラなどの作品で当時、国際的にも知られた作曲家。大曲だけでなく「赤とんぼ」「待ちぼうけ」などの童謡や歌曲は未だに愛されています。この詩は、もともとは童謡雑誌である「赤い鳥」に1924年(大正13年)に発表されました。

★ 8) 朧月夜 / 高野辰之(詩)・岡野貞一(曲)(松本編) ・全員

いわゆる「文部省唱歌」です。明治のはじめに「北海道から沖縄まで、日本の人が一緒に歌える歌」として当時の文部省が大変な労力で作りましたが、現在でも歌い継がれている名曲が多いのに外国の人も驚いています。地域の自然と、そこで生活する人への、慈しみ溢れる歌です。「日本の歌百選」選出。

9) 叱られて / 清水かつら(詩)・弘田龍太郎(曲)(松本編) ・全員

いわゆる「官製」の「文部省唱歌」に対抗して大正期に興った童謡運動。その中の名曲です。「文部省唱歌」がいわゆる「美しい予定調和」を歌ったのに対し、「童謡運動」は人々の身近な喜び、悲しみに寄り添います。どちらも素敵な歌です。

10) お母さん覚えていますか / 北原節子(詩)・高田信一(曲) ・全員

高田信一(1920~1960)は、作曲家、指揮者。NHK交響楽団などの指揮者を務めながら、広島大学教授も。広島大学の大学歌は彼の作曲。この歌は大阪ABC放送がラジオ開局の翌年1952年(昭和27年)9月からはじめた「ABCホームソング」で1956年(昭和31年)に5月に放送されたもの。名曲です。

叱られて 弘田龍太郎…作曲 清水かつら…詩

一、叱られて 叱られて
あの子は町まで お使いに
この子は坊やを ねんねしな
たべさみしい 村はずれ
こんときつねが なきやせぬか

二、叱られて 叱られて
口には出さねど 眼になみだ
二人のお里は あの山を
越えてあなた(彼方)の 花の村
ほんに花見は いつのこと

朧月夜 岡野貞一…作曲 高野辰之…作詞

一、菜の花畠に 入日薄れ、
見渡す山の端 露深し。
春風そよぶく 空を見れば、
夕月かかりて にほひ淡し。

二、里わの火影も、森の色も、
田中の小路を たどる人も、
蛙のなくねも、かねの音も、
さながら霞める 朧月夜。

